

## 第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム 研究委員OB・OG報告会（第1回）の様相について

2025年6月13日  
日本証券業協会

### <会合の概要>

2025年6月3日（火）、第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム研究委員OB・OG報告会の第1回会合を開催した。

今回の会合では、2名の研究者より近時の研究内容について報告が行われた。

発表者 名古屋大学大学院 松中 学 教授（第4期研究委員）

テーマ：敵対的買収と防衛策

ディスカッサント：東京大学大学院 飯田 秀総 教授

発表者 神戸大学大学院 岩壺 健太郎 教授（第3期研究委員）

テーマ：投資信託市場の顕著性バイアスとスマートマネー効果

ディスカッサント：大阪経済大学 大森 孝造 教授



意見交換では、松中教授の報告に対して、ディスカッサントである飯田教授をはじめ、参加者から「時間の確保を目的とした防衛策を認めるにあたり、株主総会決議や取締役会限りでの発動など様々な考えがあるが、どれを取るべきとお考えか」「時間を確保するための防衛策が認められる場合であっても、その必要な期間は事案ごとに異なると考えるべきか」「買収防衛策に関連して、機関投資家の行動は第三者からの評価に晒されているところ、その投資判断に必要な期間といった観点での議論はなされているのか」などの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。また、岩壺教授の報告に対しては、ディスカッサントである大森教授をはじめ、各委員から「顕著性バイアスの要因について、投資家が内在的に持っているプリファレンスが要因となっているのか、それとも販売会社等の強い推薦がバイアスとなっているのか」「販売会社側の供給要因としてファンドの設定からの経過期間を分析対象に含めてはどうか」「最近ではインデックス型投資信託の保有が非常に増えているが、こういった現象をどう捉えているか」といった意見が寄せられたほか、分析対象とするモデルファンドの定義や研究内容の拡張可能性などについて活発に意見交換が行われた。

以上